

「輸液管理とフィジカルアセスメント」 研修会に参加して

神奈川病院 薬剤科 武重 彩子

平成28年7月9日(土)、国立がん研究センター中央病院で開催された「輸液管理とフィジカルアセスメント」研修会に参加しました。私は2年前にもこの研修会に参加し、フィジカルアセスメントモデルを用いて聴診などを学び、とても勉強になりました。しかし、実際に行うには1回の研修では難しいと感じました。当院でも7月より病棟薬剤業務を開始したため、もう一度フィジカルアセスメントについて勉強し、少しでも業務に生かせればと思いました。さらに、昨年からはNSTの一員として、毎週カンファレンスやラウンドに参加していますが、輸液に関する知識が少なく、なかなか意見を言えずにいたため、今年度はもう少し自信を持って薬剤師目線で発言していけるようになりたいと考え、今回研修会に参加することを決めました。

本研修会は2つの講演で構成されており、まず、秋吉浩三郎先生から「周術期の体液・電解質管理の盲点」についてのWeb講演がありました。普段、電解質ではナトリウムとカリウムに注目することが多いですが、今回はマグネシウムに注目するという講演でした。マグネシウムというと酸化マグネシウム投与による高マグネシウム血症に注意が必要ということは知っていましたが、通常検査ではマグネシウムを測定することもほとんどないため、それ以外ではあまり気にかけていませんでした。しかし、手術前には30%の患者でマグネシウムが低値となり、術後に低値の割合が増えるため、補正する必要があるということを知り

ました。周術期のマグネシウム投与はシバリングを低減したり、術後痛を軽減したり、不整脈発生が低下するなどの効果があるため、フィジオなどのマグネシウムを含有する輸液を使用するということになり、勉強になりました。当院の呼吸器外科では周術期にマグネシウムを含有したヴィーン3Gが使用されており、実は低マグネシウムを防ぐ意図があったのではないかと考えられました。低マグネシウムになる可能性のある薬剤としてサイアザイド系利尿薬、PPI、タクロリムスやシクロスポリンなどの免疫抑制剤があり、これらの薬を使用している際に低マグネシウム血症の症状（テタニー、振戦、筋力低下、めまい、抑うつ、せん妄、不整脈等）がある場合には一度測定を提案することも必要であると感じました。

次に、北原隆志先生から「薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント」についての特別講演がありました。フィジカルアセスメントとは問診、打診、視診、触診、聴診を通して、実際に患者の身体に触れながら、症状の把握や異常の早期発見を行うことです。薬物の効果・副作用の確認を行う基本はカルテと検査値ですが、その他の手段のひとつとしてフィジカルアセスメントも有効です。フィジカルアセスメントを実現するために適法（薬害防止の目的で行うのは医行為にあたらぬ）、承認（病院内での承認）、研修（病院内だけでなく、市中の薬剤師も含めて）が必要であり、なかなかハードルが高いと改めて感じました。長崎大学病院では医師を講師に招いて1年間かけて

研修を行っているとのことで、教育体制が確立されているのは非常に羨ましく思いました。

聴診は訓練が必要で、すぐには習得できるものではありませんが、問診や視診は今行っていることに知識を身に着ければ、今からでも行えることがあるのではないかと思います。例えば、視診では、①前頸骨部の乾燥は脱水の観察に有効である。また、経腸栄養剤の容量と水分量はイコールではないため、水分量の計算には注意が必要である。②原因不明の食欲低下の場合は口腔内も必ず観察する。カンジダ、入れ歯が合っていない、口内炎などが問題の可能性がある。といったことを教えていただき、NSTとしてもこれらの点に着目しながら、提案をできればと思いました。

フィジカルアセスメントはあくまでファーマシューティカルケアの手段の1つであり、目的は患者の状態に基づく処方の変更や提案、副作用モニタリング、有効性の評価であり、フィジカルアセスメントを行うことが目的ではないため、目的

を見失わないようにとのことでした。病棟業務を行う上で、医師、看護師との連携は必要不可欠であり、今後、医師、看護師とは違う薬剤師の視点でのフィジカルアセスメントが重要になってくると考えます。このことを肝に銘じて勉強していかなければと改めて思いました。

実際に薬剤師が聴診器を持って病棟に行きフィジカルアセスメントを行っている病院で、導入、研修を行ってきた第一人者の先生からお話を聞くことができ、とても貴重な経験になりました。薬剤師としても、NSTの一員としても今回の研修を通して、輸液管理とフィジカルアセスメントについて学ぶことができ、大変勉強になりました。今回学んだことを少しでも業務に生かせるように頑張りたいと思います。

最後に、ご講演いただきました先生方、研修会を企画運営していただいた先生方に御礼申し上げます。

